

# 2015年度(2016年3月期) 決算説明会資料

2016年5月18日

株式会社日本製鋼所

代表取締役社長 佐藤 育男

## ご注意

- ・ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 注意書きが無い場合、「前回予想値」は2015年11月11日に、「当初予想値」は2015年5月20日に、それぞれ開示した数値です。

# 目次

- P1 ご注意
- P2 目次
- P3 事業部門の構成と製品
- P4 中期経営計画JGP2017（FY2015～2017）
- P5 連結子会社：ファインクリスタル㈱における不適切会計処理について
- P6 **第1部 2016年3月期実績**
  - P7 (1) 2015年度連結実績
  - P8 (2) 営業利益増減実績(前年度対比)
  - P9 (3) セグメント別売上高・営業利益・受注高の状況
  - P10 (4) 素形材・エネルギー事業：主要製品別【売上高・営業利益・受注高】
  - P11 (5) 産業機械事業：主要製品別【売上高・営業利益・受注高】
  - P12 (6) 設備投資・減価償却費、キャッシュフロー、財務体質の状況
- P13 **第2部 2017年3月期計画**
  - P14 (1) 2016年度計画
  - P15 (2) 営業利益増減予想(2015年度実績対比)
  - P16 (3) セグメント別売上高・営業利益・受注高の計画
  - P17 (4) 素形材・エネルギー事業 業績予想：主要製品別【売上高・営業利益・受注高】
  - P18 (5) 産業機械事業 業績予想：主要製品別【売上高・営業利益・受注高】
  - P19 (6) 受注残高の状況
- P20 **第3部 中期経営計画「JGP2017」の進捗状況**
  - P21 (1) 事業戦略
  - P22 (2) 現有事業の収益力拡大
  - P24 (3) 新製品・新規事業の育成・早期戦力化
  - P25 (4) グループ経営の強化とアライアンスの推進
  - P26 (5) 財務戦略
  - P27 (6) 素形材・エネルギー事業セグメントの資産の変化
- P28 ～ビジョンと経営理念～

# 事業部門の構成と製品

事業セグメント	素形材・エネルギー事業	産業機械事業	不動産 その他事業						
製品事業部	鉄鋼事業部	機械事業部／成形機事業部／特機本部							
生産拠点	<p>室蘭製作所</p> 	<p>広島製作所</p> 	<p>横浜製作所</p> 						
製品	<p><b>【鍛造鋼製品】</b> ○電力・原子力</p>  <p>○その他 ・製鉄用鉄鋼ロール ・金型用鋼</p> <p><b>【鋼板・鉄構製品】</b> ○石油精製用圧力容器</p>  <p>○クラッド鋼板・鋼管</p>  <p>○風力発電機</p>  <p>○水素蓄圧器</p> 	<p><b>【樹脂機械】</b> ○樹脂製造・加工機械 ・造粒機 ・フィルムシート装置 ・二軸混練押出機 (TEX・TEK)</p>  <p><b>【その他機械】</b> ○軽合金射出成形機 ・マグネシウム合金射出成形機</p>  <p>○成形機 ・プラスチック射出成形機 ・中空成形機</p>  <p>○IT関連機器 ・レーザーニール (ELA) 装置 ・成膜装置</p>  <p>○防衛関連機器      ○圧縮機</p> <p>○鉄道製品</p>	○社有地 有効活用						
市場	電力・鉄鋼	石油・天然ガス	自然エネルギー	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	不動産賃貸

## 『グローバル&ニッチトップ企業グループへの飛躍』 顧客のバリューチェーンの要衝においてトップシェアを目指す

### 基本方針

**方針1. 現有事業の収益力拡大**

- ◆製品・サービスの差別化推進
- ◆トータルコスト競争力の強化
- ◆サービス&ソリューション事業の開拓
- ◆成長市場における展開強化

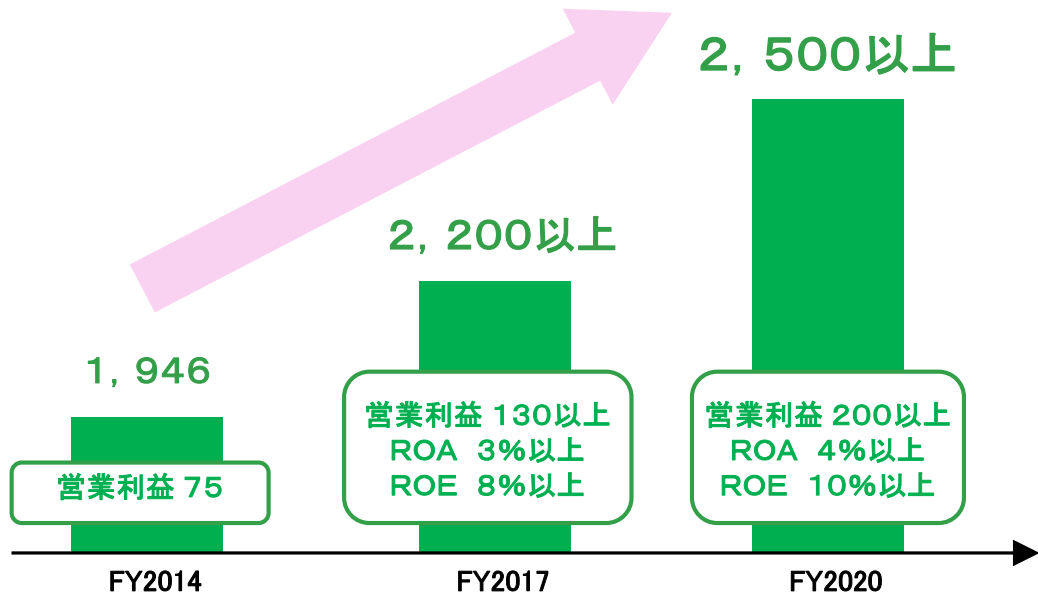
**方針2. 新製品・新規事業の育成・早期戦力化**

- ◆保有経営資源をコアとする事業化の推進
- ◆時間軸と推進体制の適正化

**方針3. グループ経営の強化と  
アライアンスの推進**

### 数値目標

「2020年：売上高2,500億円への再挑戦」



※ROEにつき当初目標値から上方修正

### アクションプランによる経営管理の徹底 (PDCAの実行)

平成28年3月28日 内部調査委員会設置

平成28年4月25日 内部調査委員会調査報告書公表

平成28年5月2日 有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度決算短信等の訂正の公表

## 再発防止策

- (1) 内部統制の再構築とコンプライアンス意識の確立
- (2) 子会社管理体制の強化
- (3) 監査機能等の強化

# 第1部 2016年3月期実績

# 1. 2015年度連結実績

売上高、営業利益は前回予想を上回るも、減損損失計上により最終赤字に。

(単位:億円)

※本ページの「前回予想」は2016年2月8日公表値

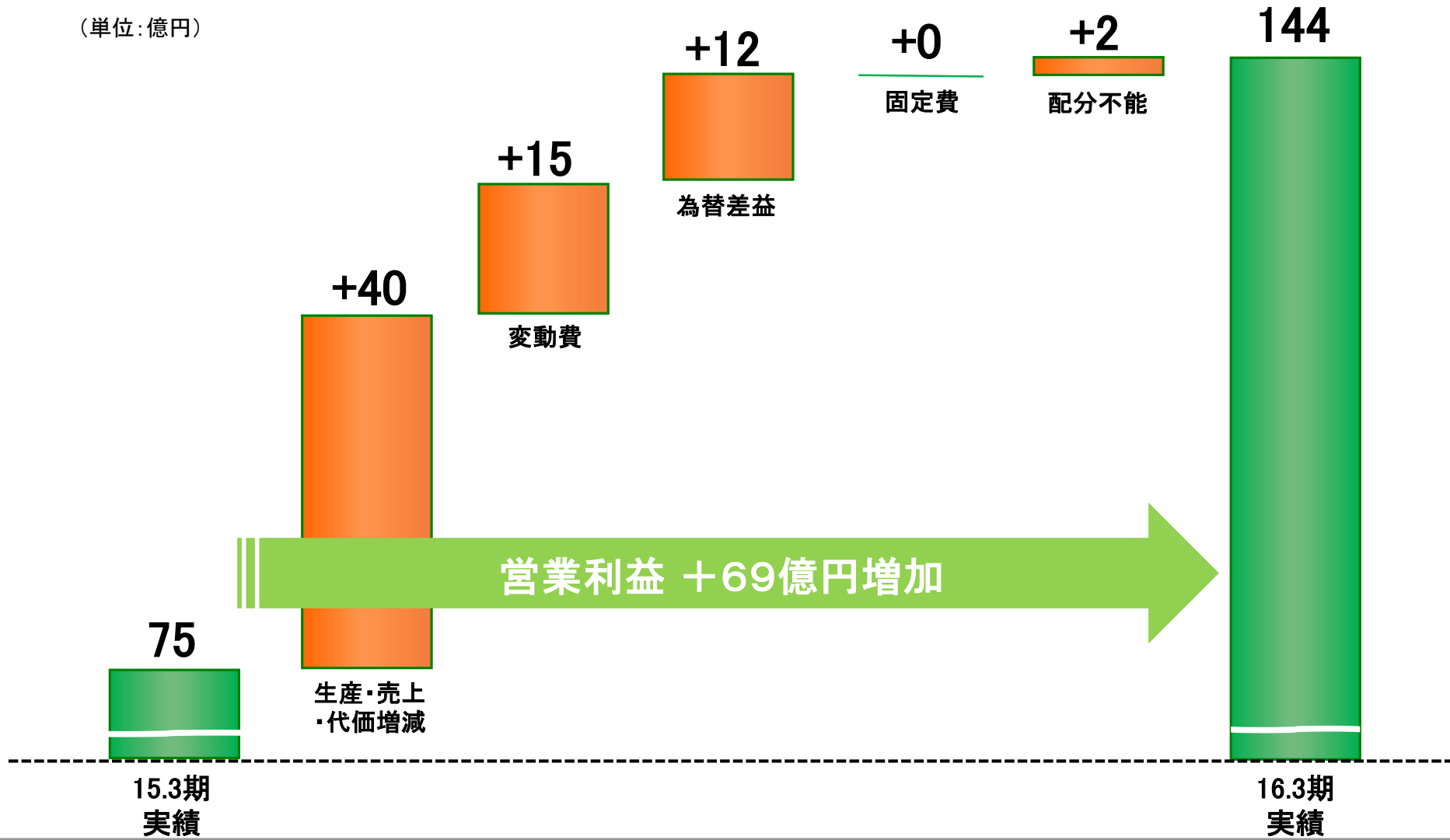
	15.3期 実績 (A)	16.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
受注高	2,059	2,100	2,116	57	16
売上高	1,946	2,100	2,233	287	133
営業利益 (率)	75 3.9%	120 5.7%	144 6.5%	69	24
経常利益	92	125	141	49	16
純利益	△ 53	72	△ 166	△ 113	△ 238
1株当たり 純利益(円)	△ 14.39	19.64	△ 45.32	△ 30.93	△ 64.96
1株当たり 配当金(円)	4.0	5.0	5.0	1.0	0.0



## 2. 営業利益増減実績(前年度対比)

クラッド鋼管や産機製品の生産・売上増等が寄与し、92%の大幅増益を達成

(単位: 億円)



### 3. セグメント別 売上高・営業利益・受注高の状況

売上高・営業利益は両セグメントともほぼ予想どおりだが、受注高は予想から乖離。

(単位:億円)

#### 素形材・エネルギー事業

	15.3期 実績 (A)	16.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
受注高	684	525	397	△ 287	△ 128
売上高	662	775	748	86	△ 27
営業利益 (率)	△ 39 -5.9%	△ 5 -0.6%	7 0.9%	46	12

#### 産業機械事業

	15.3期 実績 (A)	16.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
受注高	1,353	1,555	1,678	325	123
売上高	1,263	1,305	1,443	180	138
営業利益 (率)	113 8.9%	120 9.2%	124 8.6%	11	4

## 4. 素形材・エネルギー事業：主要製品別【売上高・営業利益・受注高】

受注高は、原子力関連の不振、クラッド鋼管案件の期ズレを主因に計画未達。

(単位：億円)

	売上高・営業利益					受注高				
	15.3期 実績 (A)	16.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)	15.3期 実績 (D)	16.3期		前期比 (F)-(D)	前回 予想比 (F)-(E)
		前回予想 (B)	実績 (C)				前回予想 (E)	実績 (F)		
電力・原子力	274	210	192	△ 82	△ 18	147	175	146	△ 1	△ 29
石油精製用圧力容器	42	30	14	△ 28	△ 16	30	30	11	△ 19	△ 19
クラッド鋼板・鋼管	162	390	393	231	3	421	180	112	△ 309	△ 68
風力発電機器	57	10	12	△ 45	2	△ 26	5	△ 3	23	△ 8
その他	70	65	69	△ 1	4	55	70	62	7	△ 8
連結会社他	57	70	68	11	△ 2	57	65	69	12	4
合計	662	775	748	86	△ 27	684	525	397	△ 287	△ 128
営業利益	△ 39	△ 5	7	46	12					

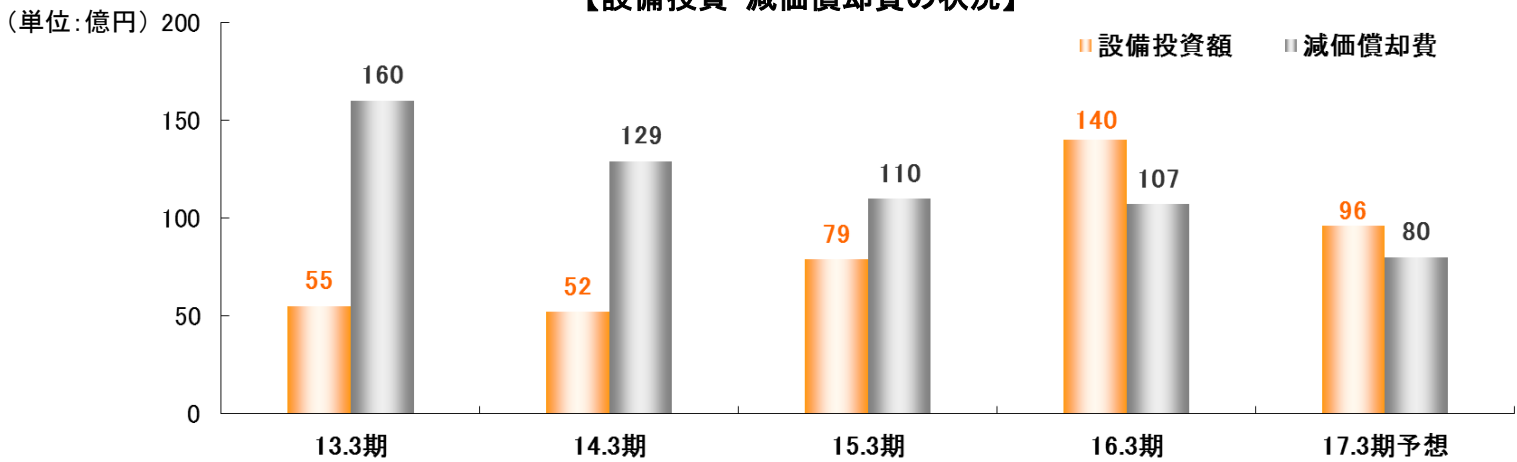
## 5. 産業機械事業：主要製品別【売上高・営業利益・受注高】

受注高は前期比伸長。各製品群とも堅調に推移。

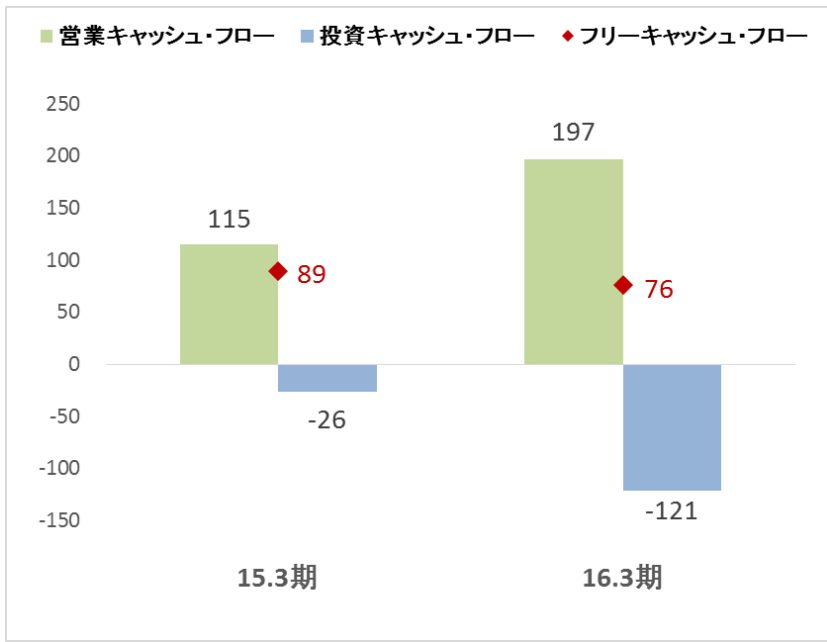
	売上高・営業利益					受注高				
	15.3期 実績 (A)	16.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)	15.3期 実績 (D)	16.3期		前期比 (F)-(D)	前回 予想比 (F)-(E)
		前回予想 (B)	実績 (C)				前回予想 (E)	実績 (F)		
樹脂製造・加工機械	325	330	364	39	34	319	380	402	83	22
成形機(連結)	536	550	564	28	14	545	590	594	49	4
その他	250	265	326	76	61	319	385	493	174	108
連結会社他	152	160	189	37	29	170	200	189	19	△ 11
合計	1,263	1,305	1,443	180	138	1,353	1,555	1,678	325	123
営業利益	113	120	124	11	4					

# 6. 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質の状況

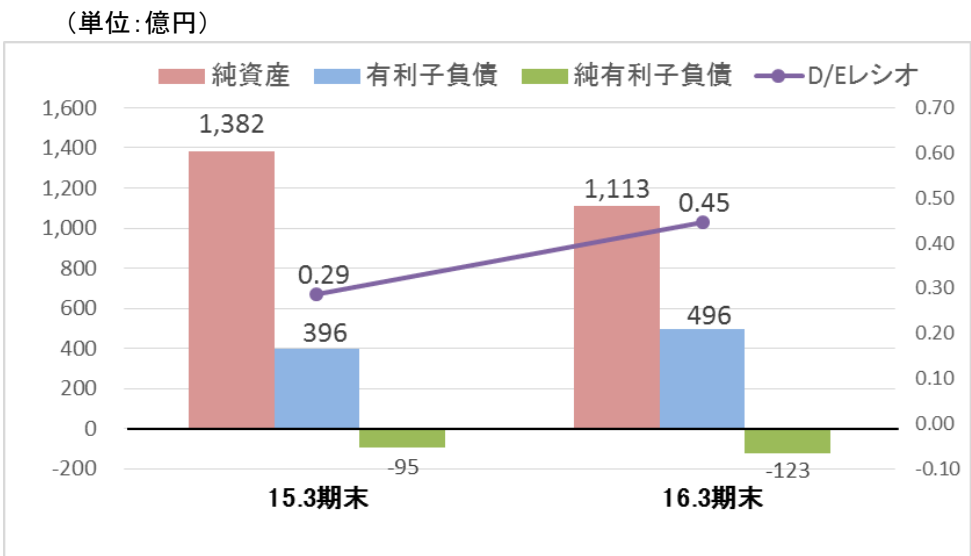
【設備投資・減価償却費の状況】



(単位: 億円) 【キャッシュ・フローの状況】



【財務体質の状況】



---

## 第2部 2017年3月期計画

# 1. 2016年度計画

受注高、売上高とも2,200億円を見込むが、営業利益は前期比減益に。

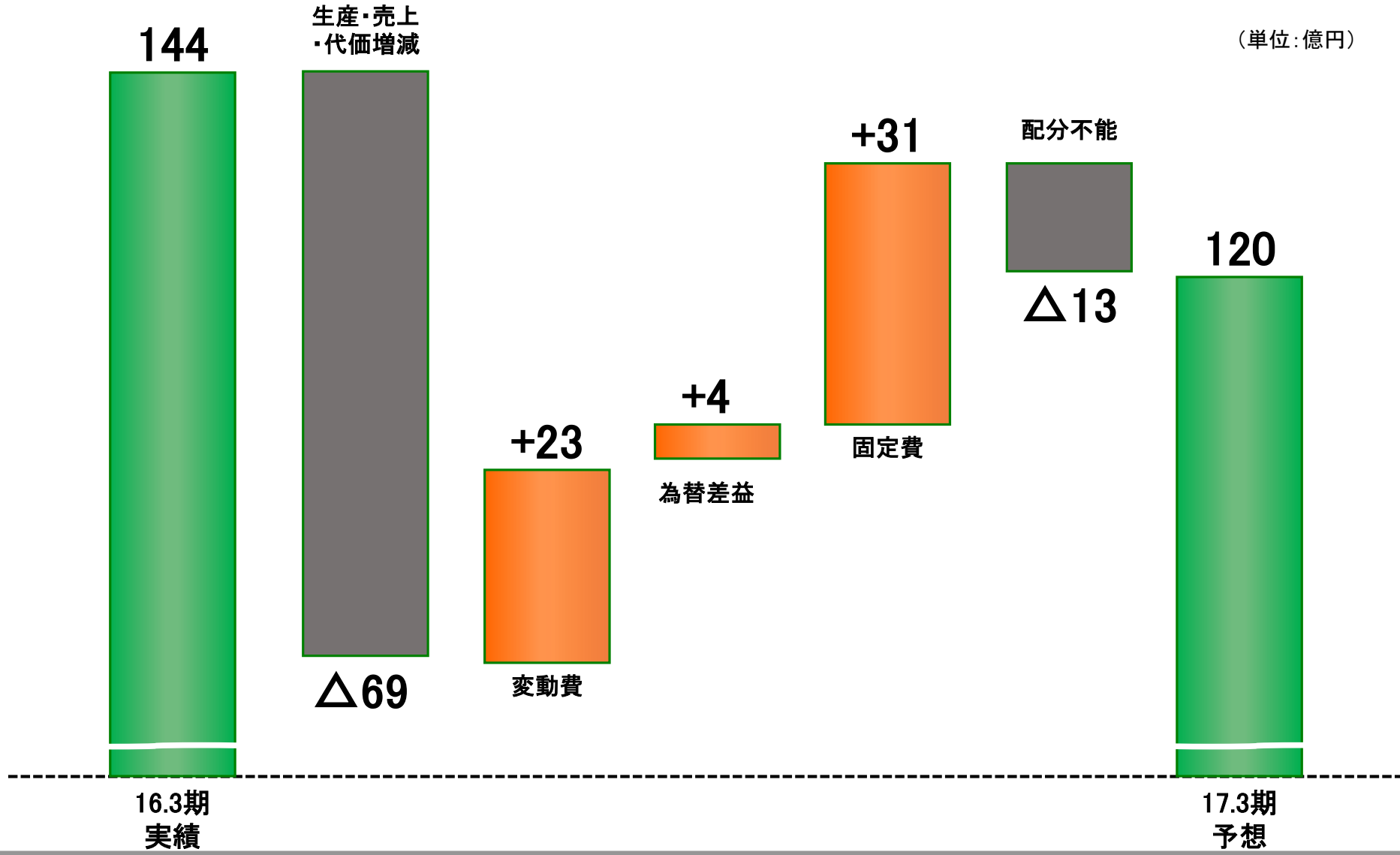
(単位: 億円)

	16.3期 実績 (A)	17.3期 予想			前期比 (B)-(A)
		上期	下期	通期 (B)	
受注高	2,116	980	1,220	2,200	84
売上高	2,233	1,100	1,100	2,200	△ 33
営業利益 (率)	144 6.5%	50 4.5%	70 6.4%	120 5.5%	△ 24
経常利益	141	50	70	120	△ 21
純利益	△ 166	30	50	80	246
1株当たり 純利益(円)	△ 45.32	8.19	13.65	21.84	67.16
1株当たり 配当金(円)	5.0	2.5	2.5	5.0	0.0
ROE	-			7%程度	-

## 2. 営業利益増減予想(2015年度実績対比)

素形材・エネルギー事業におけるクラッド鋼管の大口売上の反動減の影響が大きい。

(単位: 億円)





### 3. セグメント別 売上高・営業利益・受注高の計画

産業機械事業は増収増益基調を維持、素形材・エネルギー事業は再度赤字に。

(単位:億円)

#### 素形材・エネルギー事業

	16.3期 実績 (A)	17.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	397	560	163
売上高	748	580	△ 168
営業利益 (率)	7 0.9%	△ 20 -3.4%	△ 27

#### 産業機械事業

	16.3期 実績 (A)	17.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	1,678	1,620	△ 58
売上高	1,443	1,600	157
営業利益 (率)	124 8.6%	150 9.4%	26

# 4. 素形材・エネルギー事業 業績予想: 主要製品別【売上高・営業利益・受注高】

	売上高・営業利益			受注高		
	16.3期 実績 (A)	17.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)	16.3期 実績 (C)	17.3期 予想 (D)	前期比 (D)-(C)
電力・原子力	192	210	18	146	185	39
石油精製用圧力容器	14	15	1	11	15	4
クラッド鋼板・鋼管	393	200	△ 193	112	225	113
風力発電機器	12	30	18	△ 3	5	8
その他	69	60	△ 9	62	65	3
連結会社他	68	65	△ 3	69	65	△ 4
合計	748	580	△ 168	397	560	163
営業利益	7	△ 20	△ 27			

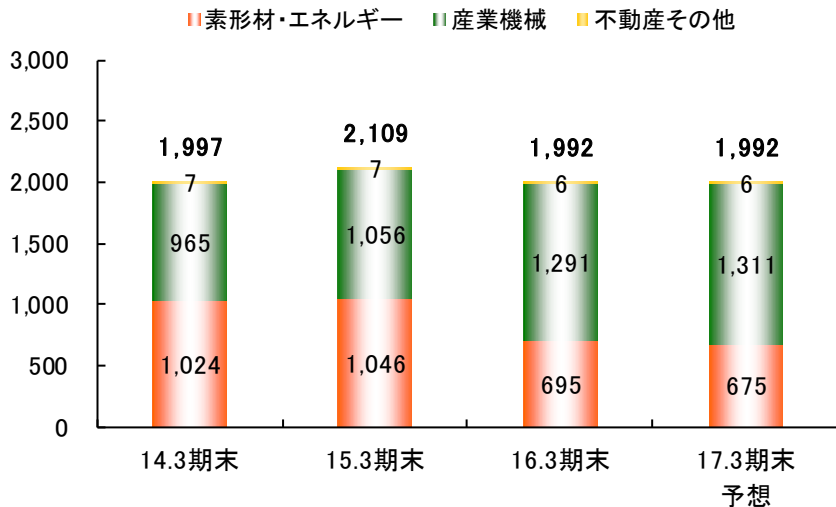
## 5. 産業機械事業 業績予想：主要製品別【売上高・営業利益・受注高】

	売上高・営業利益			受注高		
	16.3期 実績 (A)	17.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)	16.3期 実績 (C)	17.3期 予想 (D)	前期比 (D)-(C)
樹脂製造・加工機械	364	400	36	401	420	19
成形機(連結)	564	580	16	594	580	△ 14
その他	326	430	104	494	420	△ 74
連結会社他	189	190	1	189	200	11
合計	1,443	1,600	157	1,678	1,620	△ 58
営業利益	124	150	26			

# 6. 受注残高の状況

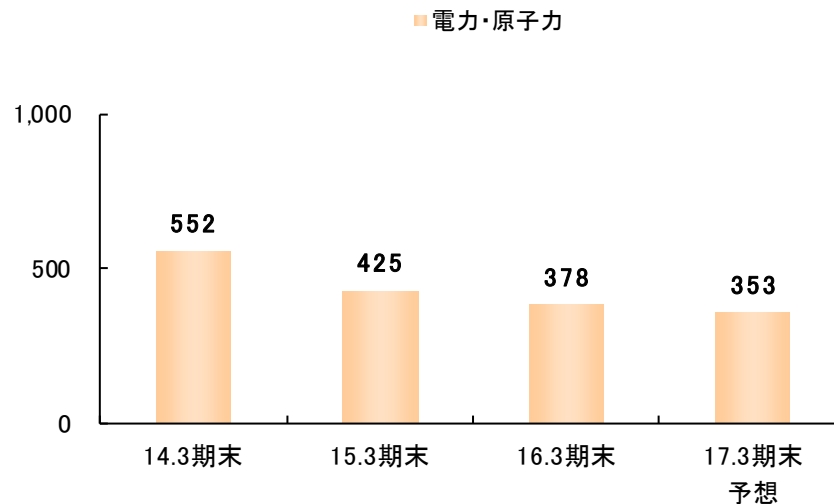
セグメント別受注残高の推移

(単位: 億円)



電力・原子力受注残高の推移

(単位: 億円)



---

## 第3部 中期経営計画「JGP2017」の進捗状況

# 1. 事業戦略

## 素形材・エネルギー事業

「守りの経営」による  
緩やかな事業伸長と  
ポストJGP2017における  
再成長を睨んだ布石

### 投下資本の圧縮

- ・設備の合理化
- ・人材再配置
- ・原価低減策の推進

### 事業領域の見直し

- ・「利益型製品」の強化
- ・「操業型製品」の量の確保
- ・新規製品の拡張
- ・不採算事業の見直し

2015年度  
実績

売上高  
748億円  
営業利益  
7億円

2015年度対比で売上高が  
約200億円減少することから  
2016年度の営業損益は赤字  
となる見通し。

2016年度  
計画

売上高  
580億円  
営業利益  
▲20億円

2017年度  
計画

売上高  
600億円以上  
営業利益  
0億円以上

受注強化による売上高の増加や  
コスト削減に引き続き努め、  
中計最終年度での黒字化を  
達成させる。

～2020年度

再成長

## 産業機械事業

「攻めの経営」による  
成長機会の発掘と  
事業伸長の加速

### 戦略的に資本を投入

- ・広島・横浜製作所の  
生産能力増強
- ・人員増強
- ・戦略的アライアンスの  
推進

### 事業領域の拡大

- ・サービス事業の強化
- ・韓国SM PLATEK買収
- ・フィルム・シート「同時二軸  
延伸事業」買収
- ・J-ADSシリーズ拡販
- ・成膜事業の拡張 他

2015年度  
実績

売上高  
1,443億円  
営業利益  
124億円

好調な受注を背景に、2016年  
度の売上高・営業利益とも1年  
前倒しで中計最終年度目標を  
達成する見込み。

2016年度  
計画

売上高  
1,600億円  
営業利益  
150億円

2017年度  
計画

売上高  
1,580億円以上  
営業利益  
140億円以上

2016年度の実績見通しを踏まえ  
中計最終年度の数値目標を  
見直していく。

～2020年度

持続的  
成長

# 2. 現有事業の収益力拡大 (JGP2017基本戦略①) 1) 素形材・エネルギー事業

	製品群	16. 3期の状況	17. 3期の見通し・課題
競争力強化	電力・原子力製品	<p>【原子力】世界全体の需要は低調かつ限定的で受注は低迷</p> <p>【火力】堅調。中国案件を中心に受注を確保</p>	<p>【原子力】日・中・英等国内外の需要動向を注視し営業活動強化</p> <p>【火力】日・中・東南アジアで環境対策を考慮した火力発電の需要は堅調に推移。重電各社の実需取込みに注力</p>
事業拡大	クラッド鋼板・鋼管	<p>【鋼管】天然ガス開発プロジェクト向け案件につき一部受注が期ズレ</p> <p>【鋼板】原油安の影響を受け苦戦</p>	<p>【鋼管】受注は前期比増加の見通し。中東・アフリカ等での需要を期待。</p> <p>【鋼板】営業活動地域を拡大し需要開拓を推進。</p>
	産業用大型鍛鋼品	大型プレス部材、洋上風力開発用杭打ちハンマー用アンビル、海洋構造物ストレスジョイントなどを展開	電力・原子力製品で培ってきた大型鍛鋼品の製造技術を活かして他産業分野の実需を確保
事業最適化	石油精製用圧力容器	採算の合う案件は限定的	引続き、競争優位分野への特化・サービス・メンテナンス事業の拡充を推進
	小型鍛鋼品	インドLTSSHF社への技術供与を推進	アライアンスによるローカライゼーションへの対応と深化を継続(インド、ブラジル)
	風力発電機	不適合の改修工事を推進 (風力事業損失引当金は160⇒86億円に減少)	不適合の改修工事の完遂 ビジネスモデルの再構築

# 2. 現有事業の収益力拡大(JGP2017基本戦略①)

## 2) 産業機械事業

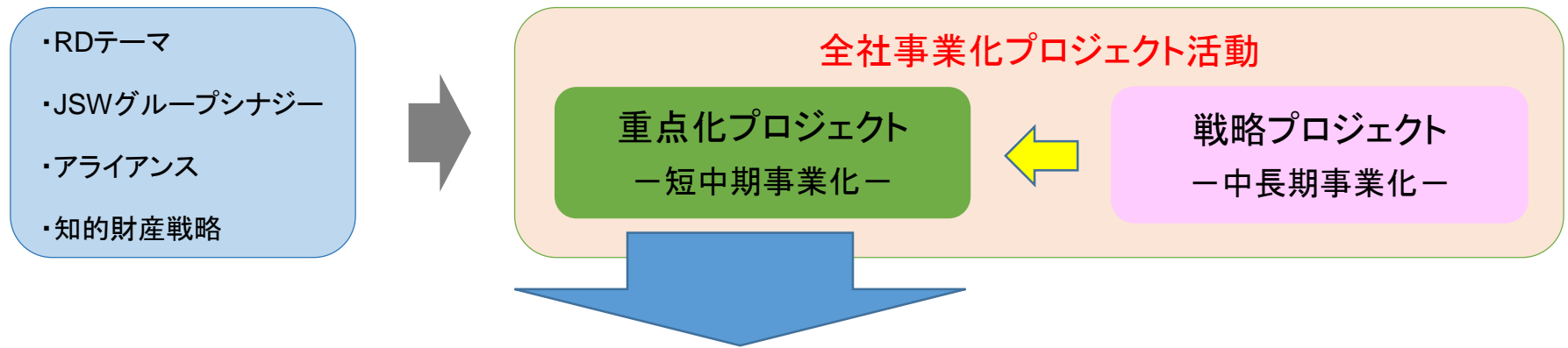
製品群		16. 3期の状況	17. 3期の見通し・課題
競争力強化	造粒機	ポリオレフィン需要の増加を背景に堅調に推移	引続き堅調に推移 大容量化等の差別化技術で対応
	レーザーアニール装置	好調な液晶パネル製造用途に加え有機ELパネル製造用途の需要も拡大し受注は大幅に伸長	有機EL市場の拡大を睨み、大型・高性能・高生産性等の差別化技術で対応
事業拡大	フィルム・シート装置	LiB用セパレータフィルム製造用途で需要が急増	引続きLiB用セパレータフィルム製造用途中心に好調継続 多様な延伸技術で対応
	中大型射出成形機	堅調な自動車分野向けに加え雑貨・容器類分野の需要も増加	引続き堅調に推移 生産能力増強(+30%)は7月完了 名機製作所との連携強化
	二軸混練押出機	エンプラ等高機能樹脂市場の拡大により堅調に推移	技術開発による樹脂の適用範囲拡大 (炭素繊維強化複合材等)
	防衛関連機器	長期計画に伴う生産体制の強化	需要に応じて適時・的確に対応
事業最適化	小型射出成形機	東洋機械金属との共同開発第一弾としてプラットフォームを共通化	新小型ADSシリーズの上市・販売開始



# 3. 新製品・新規事業の育成・早期戦力化 (JGP2017基本戦略②)

## 新規事業300億円達成(2020年)に向けた全社的な取り組み

— 全社事業化プロジェクトの推進プロセスと概要 —



狙う事業分野	重点化プロジェクト名	2016年度の取り組みの概要
次世代エネルギー分野	水素ビジネス	・水素ステーション用高信頼性蓄圧器・水素圧縮機の開発 ・燃料電池システムの開発
	海洋関連機器ビジネス	・深海に向けた海洋構造物用部材および溶接技術の開発
エレクトロニクス・情報通信分野	有機EL関連ビジネス	・フレキシブルパネル向け封止膜形成装置の開発 ・高精細に対応したエキシマレーザーアニール装置の開発
	高付加価値フィルムビジネス	・高耐久・耐熱性リチウムイオン電池向けフィルム加工装置の開発
	半導体ビジネス	・窒化ガリウム結晶製造装置、結晶関連技術の開発
自動車・航空宇宙分野	炭素繊維ビジネス	・炭素繊維複合材部品の製造装置の開発
	航空機部材ビジネス	・航空機部材事業への参入

# 4. グループ経営の強化とアライアンスの推進 (JGP2017基本戦略③)

## シナジー効果の最大化を追求

現有事業の収益力拡大

新製品・新規事業の  
育成・早期戦力化

さらに継続・強化

さらに拡大・進化

### 2015年度の取り組み

広島製作所工場再配置  
(2016年7月完成)

室蘭再構築PJの推進  
(生産効率向上他)

コーポレートガバナンス  
・ポリシーの策定

名機製作所  
完全子会社化

グループ経営強化

### 2015年度の取り組み

【フィルム・シート装置】  
同時二軸延伸技術  
の買収

【二軸混練押出機】  
韓国 SM PLATEK社  
の買収

【大型鋳鍛鋼品】  
インドLTSSHF社との提携  
ブラジルGerdau社との合併

【成形機】  
東洋機械金属との  
小型機共同開発

アライアンスの推進

# 5. 財務戦略

## キャッシュ創出力の強化と有効活用により株主価値を向上

営業C/F	
<u>197億円</u>	
償却・減損前利益	240億円
運転資金の圧縮等	23億円
その他(税金・風力特損他)	
	▲66億円

財務C/F	
(配当支払・自己株式取得を除く)	
<u>93億円</u>	



配当	<u>16億円</u>
自己株取得	<u>29億円</u>
設備投資	<u>93億円</u>
M&A投資	<u>28億円</u>

16.3期末の現預金は前期末比128億円増加

財務の健全性に配慮しながら  
引続き成長投資と株主還元のバランスを踏まえて  
創出したキャッシュの配分を検討。

# 6. 素形材・エネルギー事業セグメントの資産の変化

## 固定資産の減損処理等によりセグメント資産がスリム化

### 室蘭製作所設備資産の減損処理

平成29年3月期事業予算策定の過程において、事業環境の回復の遅れ等により素形材・エネルギー事業において、収益性の低下による減損の兆候が認められた。

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき帳簿価額と、将来キャッシュフローによる回収可能価額との差額(354億円)を減損処理。

結果として、流動資産(売掛債権・棚卸資産)の減少も含め、セグメント資産がスリム化

15.3期末

1,114億円

16.3期末

602億円

### 全社連結B/Sの変化

2015年3月期末連結B/S

(単位:億円)

流動資産	1,909
<b>固定資産</b>	<b>1,286</b>
資産合計	3,196
流動負債	1,455
固定負債	359
<b>純資産</b>	<b>1,382</b>
負債・純資産合計	3,196

2016年3月期末連結B/S

(単位:億円)

流動資産	1,955
<b>固定資産</b>	<b>975</b>
資産合計	2,931
流動負債	1,184
固定負債	633
<b>純資産</b>	<b>1,113</b>
負債・純資産合計	2,931

# ビジョンと経営理念

## ビジョン

独創技術で変化を創り出し社会の発展に貢献する企業

## 経営理念

- 1) 顧客に驚きと感動を与え続ける。
- 2) 社会との共生を図り、継続的に利益に実現する。
- 3) 変わり続ける意識を持つ。

---

# JSW 日本製鋼所